

基盤技術の推進の在り方に関する 主要論点について

主要論点① 重要な基盤技術の特定要件について

➤ **重要な基盤技術の特定要件**に関して、以下の 2 つの技術に分けて検討を進めていく必要がある。要件としては、例えば、以下のようなものが挙げられるのではないかな。

ア) **「超スマート社会」の基盤を構築**する上で不可欠な基盤技術

【特定要件（例）】

- i) システムの構築、高度化、統合化等に必要プラットフォーム（C P S 基盤等）の構築に貢献する技術であるかどうか。（強み・弱みにかかわらず、我が国が推進する必要があるかどうか。）
- ii) 共通的に活用される技術であるかどうか。
- iii) 将来の発展性を有する技術であるかどうか。
- iv) 当該技術の海外動向を考慮 等

イ) **「超スマート社会」において、幅広いビジネス創出の可能性**を秘める基盤技術

【特定要件（例）】

- i) 我が国が強みを有する技術であるかどうか。
- ii) 超スマート社会において競争力の源泉となる技術であるかどうか。（共通性、普遍性など）
- iii) 将来の発展性を有する技術であるかどうか。
- iv) 当該技術の海外動向を考慮 等

（第 1 回検討会における主な意見）

- これからの基盤技術は、「人の価値を高めるためにやるもの」という切り口でまとめてみてはどうか。
- 技術のベンチマーキングをしっかりとやって、「強い」技術は何がどのように強いのかを明確にしておく必要がある。
- 重要な技術の全部を日本だけでやっていくのは無理。特に、日本が諸外国に比べて非常に弱いところに資源を注力した結果、世界での貢献度が見えなかったとなつては非常にまずい。
- 弱いところを弱いと認めた上でやっていく必要のある部分もあるのではないかな。特に、システムの統合を支える技術を強くすることは必須。
- 技術の粒度・レイヤーをきちんと整理した方がよい。

➤ **重要な基盤技術の推進の在り方**に関して、以下の点について、引き続き検討を進めていく必要がある。

- ア) 効果的な**研究開発の進め方**とは。（社会実装までを意識した産学官連携、拠点形成、人材育成 等）
- イ) **政府やCSTIが果たすべき役割**とは何か。（産学官の役割分担を踏まえて）
- ウ) 効果的な**PDCA**の在り方とは。

（第1回検討会における主な意見）

- これまでの基本計画までよりも一歩踏み込んで、産業界の役割を明確に提示すべきではないか。
- 産学官連携については、今後は拠点をあちこちに作って、産学官の人たちに集まってもらって、形だけでなく、うまく動かしていく仕組みを考えないといけない。重要な基盤技術の拠点の作り方の議論が必要。
- これからの産学官連携には、いい技術ができたので使ってくださいというユニアモデル的な取組ではなく、最初から入れ溝方式でハーモナイズしながら研究開発を進めていく産学官併走型のプラットフォーム作りが重要。
- 産学官のイノベーションハブには、強いリーダーを置くことが必要。
- 産学官の間の人材の流動性を高めることが重要だが、抜本的な人事制度の改革についても国が検討、実行する必要がある。
- 重要な基盤技術については、学問的な体系をしっかりと作っていくことで、真のプラットフォーム技術となる。
- 人材育成は、日本だけでやっても駄目であり、国際連携の中で、世界中の人材や知識が入ってこれるような人材育成スキームとすることが重要。